

横斑プリマスロック種鶏の制限給餌による産卵成績向上

制限給餌により種鶏の体重をコントロールすることで、産卵成績が向上し増収が期待出来る

背景・目的

- ・「かごしま地鶏」の1つである「黒さつま鶏」の出荷羽数は年々増加し、今後も需要拡大の見込み
- ・「黒さつま鶏」の母方種鶏である横斑プリマスロックは増体能力に優れるが、過肥になりやすく産卵成績が低下
- ・種卵の増産、生産の安定化が求められており、産卵成績の向上を目的とした制限給餌方法を開発

成果の内容

1 育成期の給餌法 (19週齢まで)

4週齢までは不断給餌とし、4週齢以降は不断給餌の60%に給餌量を制限
(目安:平均90g/羽・日, 体重2,480g(20週齢時))

2 成鶏期の給餌法 (20週齢以降)

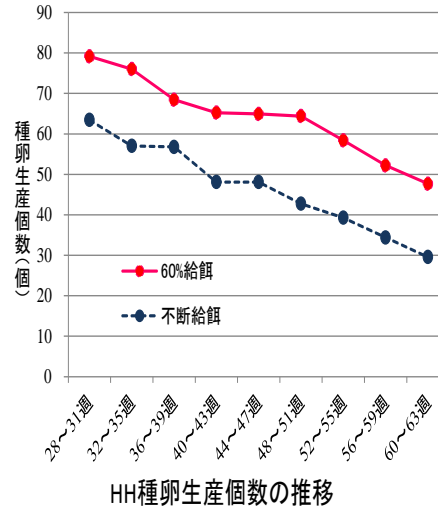
115g/羽・日給与から開始し、産卵率の増減に応じて給与量を調整
(最大130g/羽・日, 産卵率10%毎に2g/羽・日増減)



横斑プリマスロック

3 成鶏期の成績

不断給餌に比べて、生存率及び産卵率が向上し、種卵生産期間中の種卵生産個数は高いレベルで推移



制限給餌と不断給餌による成鶏期の飼養成績

	生存率 (%)	HD産卵率 ¹⁾ (%)	HH種卵生産個数 ³⁾ (個)	平均卵重 (g)	飼料摂取量 (g/羽・日)	平均体重 (g)
60%給餌	98.3	59.8	64.1	60.4	126.3	3,108
不断給餌	71.8	53.0	46.6	62.2	197.5	3,342

注1) HD産卵率: 産卵個数/残存羽数×100 2) HH産卵率: 産卵個数/初期導入羽数×100 3) 種卵生産期間: 28週齢以降, 種鶏100羽当たり

導入メリット

制限給餌を行い体重を適切にコントロールすることで、飼料費の低減、種卵や素ひな生産数の増加が見込まれ、収益性の向上が期待できる

収益性

区分	飼料費 ¹⁾		素ひな生産羽数 ²⁾ (羽)	素ひな生産額 ³⁾ (千円/年)
	育成期 (千円/年)	成鶏期 (千円/年)		
60%給餌 (a)	5,586	12,955	613,174	165,557
不断給餌 (b)	8,538	20,255	446,158	120,463
収益性 (a)-(b)	-2,952	-7,300	-	45,094

注1) 種鶏(♀)年平均飼養羽数: 育成期2,850羽, 成鶏期4,680羽と試算, 飼料価格60円/kgとする 2) 受精率80%, ふ化率70%とする 3) 270円/羽とする

期待される効果

飼料費低減, 種卵供給の安定化, 素ひな生産額の増加による収益性の向上

鹿児島県農業開発総合センター 畜産試験場 中小家畜部 養鶏研究室

普及対象・範囲

県内の「黒さつま鶏」種鶏場